



# 村民一人ひとりが主役 あきらめないために

山中湖村の村長選挙は、十一月二九日告示で、十二月四日投票です。現在の立候補予定者は二名で、四年前と同じ顔ぶれです。両者とも立候補声明や決起大会を終え、両陣営は、激しい選挙戦を展開しています。しかし、きれいなことはもう、十分です。樋口は、村民の方々から「どうするのか」「どのように考えているのか」と電話などで問われます。この機会に、現時点での考えをまとめてみることにしました。

四年前の村長選では、一村民として現職の高村文教氏を支持し、友人知人にも文教氏への支援をお願いしました。文教氏とは一期目の平成十五年四月から村議会議員の同期でした。翌年の十一月の村長選の時、それまでの借金による生コン・箱物行政の変革をめざし、議員任期途中の文教氏を候補に擁立し戦いましたが、141票の差で及びませんでした。それから八年後が四年前の村長選挙です。候補者は、36年間村の職員を務めた高村正一郎氏と以前敗れている文教氏です。樋口は両候補者の意見や考え方を直接聞くことと双方に電話したところ、正一郎氏からは、時間がないとの理由で断られ、一方の文教氏からは「初心は変わらない」という

復帰しました。そこで、行政のチェックおよび監視役を付託された議員の視点と、四年前の選挙で文教氏への支援をお願いした方々への責任として、文教村長の四年間について、率直な評価をお伝えしたいと思います。  
(あくまで樋口の評価です)

## ◎良かった点は

- ・村長として気さくに話ができ、政策提案にも耳を傾けてくれた。
- ・樋口の環境保護活動に対して、行政あけて協力して頂いた。

## ◇評価できない点は

- ・役場内部の度重なる不祥事(村営墓地問題、姫まりもキャラクター問題、塩素薬剤水増し事件等)に対し、初期に隠れいをおこなない、調査や問題職員の処分が不公正。
- ・樋口からの改善提案や指摘も、聞き入れなかった。

- ・選挙人事をおこなない、副村長を一年交代で指名している。他の要職も同様、人事に公平性を欠き支援者や村民から反感や信頼を失った。
- ・職員評価が一面的で職員との対話が乏しく、職員のやる気を引き出していない。四年間で職員が十人以上も退職している。
- ・職員への聞き取りでは、大多数の職員からの信頼を失い、リーダーとしての体温も感じられず、残念。
- ・村長の目玉政策である「まちづくりに」で、東大の研究室や関連機関に莫大な税金(一億数千万円)を支出しながらも、評価できる成果が乏しく、施策実行力が期待外れ。
- ・公共事業等の入札について調査した結果、驚くべき高い落札率となっており国や村の法令・規則にも抵触し、税金の無駄遣いを改めない。
- ・外部の意見に安易に盲従しやすく、一部の利権的要請にも弱腰で、長として毅然とした対応ができず、公正な行政への期待に背いた。
- ・提案や指摘に笑顔で対応はするが、懸念している。今までの支援者や、手足となる職員からの信頼が薄いとを謙虚に受け止める必要がある。

## 文教候補と面談して

先日文教候補と長時間面談し、右記の四年間の感想を率直に伝えました。現状では樋口の周囲の人は期待外れであると感じていること。現在核となっている選挙支援者や手法が、旧来型のしがらみや締め付けの情報が、このままでは村民の人心が荒廃することを

これ以上形式論で「よまかすのではなく、自分の人生と家族や村民を大切に、文教氏らしい、きれいな退きぎわを期待したい」と伝えました。

## 落札率 99.8% の入札

平成27年度の競争入札による工事請負件数は11件で、総額は税抜きで約4億6千万円であった。落札率の平均は98.8%という他に比較的高落札率である。低いもので97.0%一番高い落札率は「紅富士の湯」リニューアル工事」で、3億円を越す工事費が99.8%と、ほぼ100%で落札されている。しかも一般競争入札にもかかわらず恣意的に参加資格を限定し、参加者は一社のみで、予定価は公開されていた(官製談合の疑いが強い)さらに工事請負額の数倍になる委託費や物品購入は、相見積もとらないう任意契約で行われたものが多く、財務規則に違反している。

決定業者	決定方法
大塚建設・タカムラ建設 山中湖温泉「紅富士」リニューアル工事共同企業体	入札
293,000,000	0
決定価格(消費税別) 293,000,000	最高競争価格(消費税別) 294,900,000

ももし落札率を長野県並に努力すれば、10%カットでき、全体で約2億円以上の税金の節約が見込まれた。塩素剤水増し請求事件で発生した内容を十分理解しようとする姿勢が見えず、真の誠実性に乏しい。村長職のほか、振興公社の社長、観光協会の会長と三つの権力を握ったまま放さず、補助金等の出し手と受け手が同じ村長自身であり、公金の透明性に欠ける。(三権掌握は、過去の村長にはない)

なつて入札体制の抜本的な改革と、厳格な運用こそ行うべきである。◆平成27年度決算認定に反対した。再選を目指す文教氏は、今回住民から出馬要請や推薦は一通もなく、役場職員からの信頼も失っています。上記記事のとおり、文教氏との面談では、これまでの同志・友人として、退きぎわの美を勧めました。

「信」なくば立たず  
【「民無信不立」論語】  
この言葉は、孔子が弟子から「政治において、最も大事なものは何か」との間に答えた、縮めた言葉です。よく政治を志す者が、この「信」を「信念」と解釈し「信念がなければ立候補しない」と使います。しかし、本当の意味は「民からの信頼」という意味です。「立たず」とは「成り立たない」ということです。

■村長選挙に関する考え  
村長選のシヨリから、村民が分断されることを最も憂います。6千名が共に協力し、山積する村の問題解決に一致団結して前進する時です。その願いから、前々回は当時の両候補者に「大同団結」を訴え、前回は「融和と団結」の精神を文教氏に提案しました。なお「村民かわらばん」のバックナンバー第9号、20号、49号の記事も参考に、ご覧ください。